

PEG 後の経過についての追跡調査

川瀬将紀¹⁾ 谷口靖樹¹⁾ 中原さおり²⁾

JA 三重厚生連菰野厚生病 1)薬剤部 2)栄養科

【目的】PEG が登場して以来、胃ろうは低リスクかつ安定して栄養供給を行えるツールとして普及している。一方近年では PEG 後の生活の質が問題視されている。そこで PEG 後の転帰、経口訓練の有無等について調査した。

【方法】対象は 2009-2012 年の PEG 施行 92 例(男性 37 名、女性 55 名)年齢は中央値 82 歳。

【結果】転帰:施設へ退院 52 例(57%)在宅へ退院 24 例(26%)死亡 16 例(17%)

退院時の栄養法:液体栄養法 3 例(4%)、経口 1 例(1%)、半固形化栄養法 72 例(95%)。

嚥下評価と経口訓練:26 例が PEG 前に嚥下造影を行っており、いずれも経口訓練は可能との判定であったが、その後経口訓練を行ったのは 3 例(11%)、嚥下造影未実施 65 例で、PEG 後経口訓練を行ったのは 4 例(6%)。全体としては 92 例中 7 例(7%)であった。

生存例 VS 死亡例の比較:年齢に差はなく PEG 前の Ch-E、TLC、CRP に差を認めず。

【考察】経口訓練を行ったのは全体では 7%、さらに経口摂取にて退院可能であったのは 1%であり、PEG 後の経口摂取への厳しい現実が窺えた。Ch-E、TLC、CRP は PEG 前における合併症の予測につながるものと考えられる。